

2022年8月23日作成

Ver.2.0

## 肝細胞癌における全身薬物療法の効果と分子病理学的特徴に関する研究

## 1、研究の目的と意義

肝細胞癌の治療法としては、手術療法、焼灼療法、全身化学療法等が行われております。切除不能なほど進行した肝細胞癌の一次治療として、2020年に免疫チェックポイント阻害薬と呼ばれる新しい機序の薬剤が標準治療となりました。この薬剤と外科的治療を用いた集学的治療に関する臨床研究も行われております。

当科においてもこのような薬剤を用いて巨大な肝細胞癌を小さくし、手術を行えるようになった患者さんもいらっしゃいますが、一方で治療の効果が乏しい患者さんもいらっしゃいました。癌細胞は均一な集団ではなく、多様性があると言われております。より効果的な薬剤選択を行えるようにするため、この違いを明らかにすることが目的となります。

## 2、対象となる患者さん

2009年1月1日～2024年12月31日の期間に当科で肝細胞癌に対して手術療法を行った患者さんが対象となります。

## 3、研究の方法

血液検査で得られたデータ、切除した肝組織を特殊な抗体で染色したスライド、CT・MRIなどの画像データを調べて、治療に用いた薬剤がどのような患者さんに対して有効なのかを検討します。

## 4、研究に用いる試料・情報

- ① 臨床所見(年齢、性別、身長、体重)
- ② 血液学的所見  
血球分画、CRP、肝機能、腎機能、腫瘍マーカー
- ③ 画像検査所見 (CT、MRI)：肝細胞癌サイズ、脈管侵襲、個数、リンパ節転移、遠隔転移、造影効果
- ④ 手術所見 (術式、手術時間、出血量、術中所見、切除標本所見)
- ⑤ 病理学的所見(組織学的分類、深達度、リンパ節転移、根治度、病期分類、遺伝子マーカー)
- ⑥ 治療経過
- ⑦ 再発(再発の有無、再発確認日、再発形式、転移部位)
- ⑧ 免疫染色

本研究で用いる試料は手術で切除した肝臓の組織を用います。

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

## 5、研究期間

研究機関長の許可日～2026年12月31日

## 6、外部への試料・情報の提供

該当なし

## 7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 移植・消化器外科 江口 晋

## 8.お問い合わせ先

長崎大学病院 移植・消化器外科 曾山 明彦

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7316 FAX 095（819）7319

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）